

令和7年度 第2回「生徒による授業評価」報告書

1 回答数（3学年の合計）

国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	課研
1879	1429	504	977	2225	1647	337	1954	333	307	977

2 質問項目

大項目	小項目		
	番号	質問	趣旨
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとめ）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。	「主体的な学び」に関する項目
	2	単元（内容のまとめ）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。	「対話的な学び」に関する項目
	3	単元（内容のまとめ）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。	「深い学び」に関する項目
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。	「項目1」と関連の深い項目
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。	「項目2」と関連の深い項目
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。	「項目3」と関連の深い項目
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。	より高次な学びの構築に関する項目

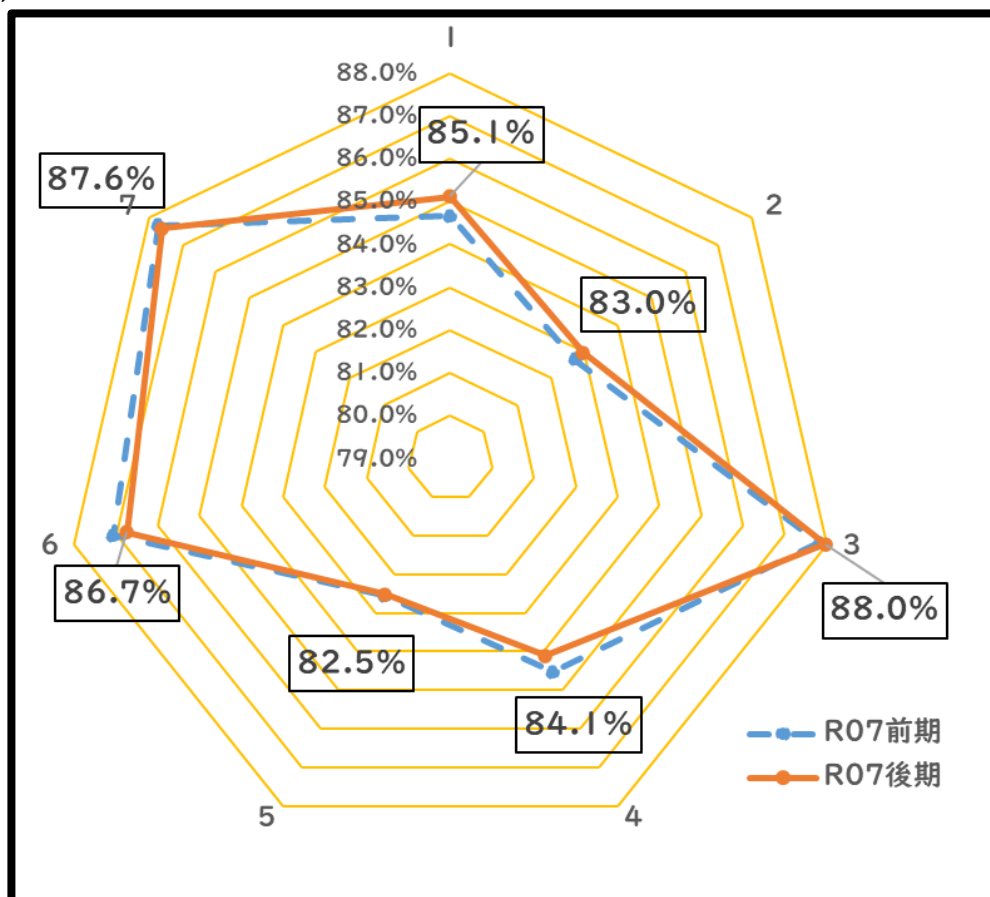
3 集計結果

(ア) 肯定的回答（「4 かなり当てはまる」「3 ほぼ当てはまる」）の割合（集計結果）

※単位は%、小数第2位を四捨五入

問	国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	課研	平均
1	72.8	87.9	81.2	91.3	73.0	88.9	94.1	86.2	91.9	78.8	73.4	85.1
2	75.4	83.9	85.3	89.0	75.2	82.4	94.1	92.0	83.5	63.2	91.6	83.0
3	82.4	87.6	87.1	94.4	84.0	85.8	96.1	92.4	91.9	82.1	94.9	88.0
4	82.9	84.0	74.6	91.7	81.5	82.2	94.1	87.7	85.9	79.2	83.4	84.1
5	75.6	86.2	84.3	87.5	76.3	80.9	95.0	88.5	83.5	67.4	89.6	82.5
6	81.1	88.0	84.1	92.3	82.5	85.3	93.5	91.9	91.6	80.8	91.2	86.7
7	85.5	93.1	83.3	93.3	86.9	80.4	89.3	90.4	93.1	81.4	87.4	87.6

(イ) 肯定的回答の割合（校内平均値、レーダーチャート）〔前期（破線）・後期（実線）比較〕



(ウ) 共通小項目の質問3について、「4 かなり当てはまる」の回答割合 (%)

質問	国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	課研	平均
3	38.4	45.3	63.7	58.6	39.8	41.2	59.6	49.7	46.5	33.2	58.2	46.4

4 分析と展望

(ア) 令和7年度は、「STEAM教育の視点を取り入れた探究的な授業実践」を本校における組織的な授業改善のテーマとして設定し、授業実践に取り組んだ。

(イ) 肯定的な回答をした割合は、すべての質問項目で平均8割を超えた。本年度の前期も同様の結果であり、今後も継続して組織的な授業改善に取り組んでいく。

(ウ) 肯定的な回答をした割合について、前期と後期を比較すると、第一に後期では質問項目の4と6が前期を下回っている。第二に、前期から引き続き、質問項目2と5の「対話的な学び」に関連する肯定的回答の割合が、他の回答割合と比較して低い水準である。

(エ) 「深い学び」に関連する質問項目3について、「4 かなり当てはまる」と回答した割合は、学校全体で46.4%であった。これは、学力向上進学重点校における「具体的な評価の視点・水準」で求められる、学校全体で5割という数値を下回っている。

(オ) 令和8年度に向けて、次の点を個別的なテーマとして組織的な授業改善につなげていく。

- ① 「STEAM教育」とは何かについて整理をしたうえ、授業の中に組み込んでいく。
- ② 「探究的な授業実践」において、「対話的な学び」をより一層意識した授業を構成する。
- ③ 「深い学び」をできた、生徒が思い感じ取ることができる授業構成を計画・実践する。